

第5章 防災啓発・教育活動

1. 開所式の開催

愛知工業大学地域防災研究センターの完成を記念して、平成17年6月10日（金）12:00～14:15 愛知工業大学愛和会館にて開所式が行われた。参加者は、企業、防災ボランティア団体、学校関係者など95名、愛知工業大学の学生57名が参加した。

プログラム

- センター自由見学
- 挨拶（理事長、学長、来賓、センター長）
- 基調講演「巨大地震を正しく恐れる」～スマトラ沖地震と東海・東南海・南海地震の共通点と相違点
（京都大学副学長 入倉孝次郎 教授）
- プロジェクト紹介（センター長、コンソシアム参加企業）
- 祝賀パーティー



写真1 地域防災研究センター テープカット（上田英貴撮影）



写真2 入倉京都大学副学長による基調講演（村瀬浩也撮影）

2. 市民・学生向け災害ボランティアコーディネーター講座等の開催

本学在学の愛知防災カレッジ卒業者を中心に防災ボランティアサークルを設立した。メンバーに対し災害調査、委託業務補助などの実務を通じて将来ボランティアコーディネーターとして活躍できる人材の育成を図っている。H16年度には中越地震災害調査に参加し地盤震動調査の観測補助を担当した。H17年度には知多市の委託業務である地域防災マップ作成業務の一部を負担し、地域の防災ボランティアとの連携を図った。また豊田市の委託業務である防災カルテ作成の資料整理の補助を行った。平成18年度は、本学主催の学生チャレンジプロジェクト、コンソシアムせと主催の大学生によるまちづくり活動応援助成金への応募を予定している。

愛工大防災ボランティア ” ”募集!

活動日 毎週 火曜日12:30
場所: 地域防災研究センター




地域防災研究センター

阪神大震災では、多くのボランティアが大活躍しました。愛工大には若い力と高い専門知識がたくさんあります。この力と知識を結集すればたくさんの命を救うことができます。



中越地震で倒壊した家屋

さあ、ボランティアしませんか

本ボランティアグループは愛知防災カレッジ卒業者(愛知防災リーダー)が中心となって運営を行っています。



地盤崩壊で親子が生き埋めに

連絡先: masaki@aitech.ac.jp
顧問: 都市環境学科建築環境学専攻
正木和明教授

図1 ボランティアサークル募集のビラ



写真 中越地震被災地における微動観測



図2 知多市防災マップ作成例

3. 地域防災研究センター 見学会の概要

平成 17 年度は、市民団体・企業・学校等、1141 名の見学者が地域防災研究センターを訪れた。このうちいくつかの見学会について紹介を行う。

(1) 東海南高校 2 年生 見学者 39 名 平成 17 年 11 月 10 日 (木)

普段高校では習うことのない、地震防災の話について生徒たちは、熱心に聞き入っていた。



写真 1 木造免震装置の説明



写真 2 木造耐震補強の説明

(2) 長久手町民生委員 見学者 15 名 平成 17 年 11 月 25 日 (金)

災害時にも大いに活躍すると予想される民生委員の方々に、当センターで地震防災に関する様々な話を聞いてもらい、体験することにより、多くの地震防災に関する知識を身につけてもらえたのではないかと思います。



写真 3 地震情報配信装置の説明 (上田英貴撮影)

(3) 三金会 見学者 30 名 平成 17 年 10 月 17 日 (月)

東海地方を中心として様々な企業で構成される三金会には、企業防災に関心の高い企業も多く、熱心に講義や見学会に参加していた。また、あまり企業防災に関心のなかった企業が「見学会に参加して企業防災の必要性を感じた」という意見もあった。



写真 4 自走ぶるるによる体験 (上田英貴撮影)

4. 展示会への出展

(1) 建設技術フェア 2005 in 中部 (国土交通省主催)

平成 17 年 11 月 17 日 -18 日 (ナゴヤドーム)

「地震情報活用による地震防災力の向上」

(2) ものづくり岐阜テクノフェア 2005 (㈱岐阜県工業会主催)

平成 17 年 9 月 30 日 -10 月 2 日 (岐阜メモリアルセンター)

両展示会に出展し、地震防災コンソシアムの取り組みや企業防災と産学連携の技術開発計画などを紹介した。



写真 1 展示会ポスター



写真 2 ものづくり岐阜テクノフェアの様子 (上田英貴撮影)

5. 高校生地震防災研究プログラムの推進

平成 17 年度から「高校生地震防災プログラム」を開始した。その狙いとするところは、今後の防災研究を担う若者を育てることである。本プログラムはこのような目的から以下の基準にしたがって参加高校を募集した。

1. 地震防災に関する研究を本センター教授・研究員・大学院学生と協力して進める。
2. 研究の場所として本センターを提供する。また、貴学に講師を派遣する。
3. 研究に必要な経費は本センターが支援する。
4. 研究期間は 1～4 年とする（開始年度は H 17 年度）。
5. 研究成果は本センターで開催するセミナー、市民講座等で発表を行う。
6. 募集校は 5 校程度。

選出された高校名とテーマは以下のとおりである。

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 浜松工業高校 | 地震の揺れに耐えることが出来る脚歩行型救助用ロボットの研究 |
| 小牧南高校 | 地盤の液状化に関する研究 |
| 各務原高校 | 大規模噴火と地震活動の発生間隔の妥当性 |
| 吉城高校 | 飛騨地区の断層付近における地電流の測定 |

平成 17 年 12 月 23 日日本センター 1 階において発表会が開催された。参加高校生・顧問、近隣の理科教育関係の先生方、本学関係者、センタースタッフなど約 50 名の参加のもと、発表、質疑応答、交流会が開催された（参考資料：朝日新聞記事）



写真 発表会の様子

6. 愛知工業大学体験ワールド参加

平成 17 年 7 月 30 - 31 日、愛知工業大学体験ワールドが開催され、本センターもこれに参加した。体験ワールドは、小中学生および家族を対象とし、本学教員がコンストラクターとなって実験、実習を通じて科学技術の面白さを体験する企画である。

本センターは地震防災について体験学習する企画として以下のプログラムを実施した。

1. 簡易震度計の作成
2. 振動台ぶるるによる地震体験
3. ペットボトルを用いた液状化実験
4. 手回しぶるるを用いた家屋震動実験
5. 紙ぶるるの作成と家屋震動実験

30,31 日の午前 10:00 ~ 12:00、午後 13:00 ~ 15:00 の計 4 回体験講座を開講し、合計 64 名の子供たち、62 名の家族の参加がありフロアが溢れるほどの大盛況であった。

簡易震度計は、写真に示すように①本挟みペアーの片方、②厚紙、③金属棒 4 本、から成っている。本挟みは 100 円ショップで売られている金属製のもので表面に凸凹が無いものを苦労して探した。1 枚約 120 円であった。厚紙は特別に注文し、治具を用いて子供自身で穴を開けてもらったが結構面白そうであった。金属棒は町工場に発注し、切断面は研磨の上、直角をキチンと出してもらった。金属棒の直径と高さの比 (a/h) を震度に相当する加速度と重力の比 (α / g) に一致するように切断してある。最後に震動台ぶるるに完成品を並べて揺らし、金属棒が順番に倒れていることを観察しながら「震度」の概念を学習してもらった。



写真 簡易地震計 (左上)、講座風景 (右上)、穴開け作業完成 (左下)、震動台で転等実験 (右下)

7. オープンキャンパス

愛知工業大学への入学を希望する受験生や在校生に向けて、平成17年8月3日（夏季）と平成17年10月16日（秋期）に実施されたオープンキャンパスにおいて、地域防災研究センターの活動や地震防災に関することの紹介展示を実施した。「リアルタイム地震情報の発信」の紹介パネルなどを展示し、見学者は熱心に見入っていた。その他にも、手回しぶるる（自らの操作で振動現象を体験できる装置）などが人気を集めていた。



写真1 オープンキャンパスの様子

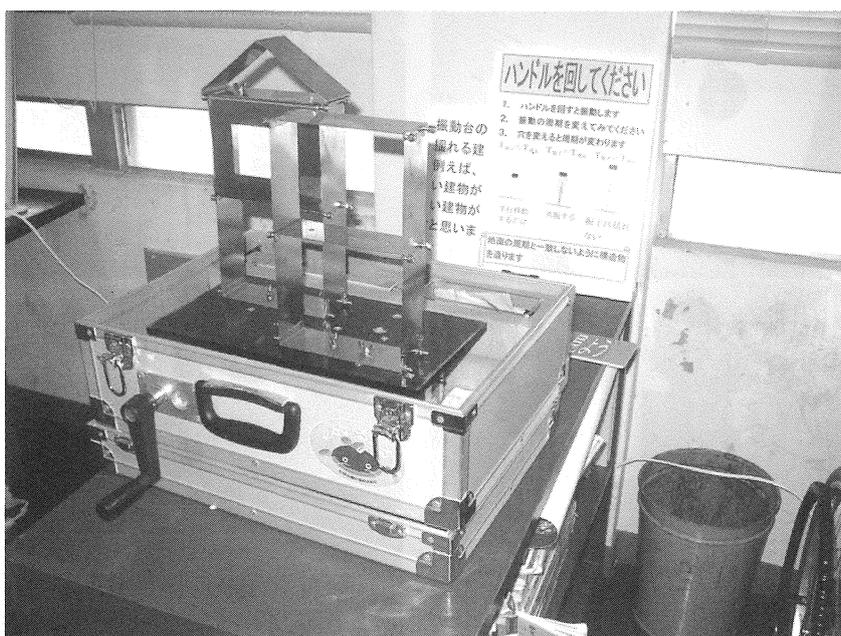


写真2 オープンキャンパス展示物（手回しぶるる）

8. 市民公開シンポジウム 流域で見る洪水ハザード

廣内 大助

2006年4月15日（土）に名古屋大学、富山大学と共催で、公開シンポジウム「流域で見る洪水ハザード」を名古屋大学環境総合館1F レクチャーホールにて開催した。本シンポジウムは日進市、市民がつくる災害に強いまちづくりの集い、名古屋大学、富山大学、愛知工業大学の官、民、学がコンソシアムを組織し協働する、災害・防災学習カリキュラム開発委員会が主体となって実施した。委員会が行った天白川流域住民へのアンケート調査結果報告をはじめ、日進市洪水ハザードマップの作成過程や、基調講演として洪水ハザードマップの作成方法、河川環境を流域の視点から考えるなどについて講演が行われた。当日は日進市や天白区などから天白川流域の市民を中心に、100名を越える参加者があった。

公開シンポジウム
流域で見る洪水ハザード

三〇〇六年四月十五日（土）
名古屋大学環境総合館二階
レクチャーホール

予約不要
入場無料

City
Town
City
Town
Village
Village

schedule 13:30-16:45

- ※趣旨説明 岡本耕平（名古屋大学）
- ※基調講演① 河川環境を流域の視点から考える 中村太士（北海道大学）
- ※基調講演② 洪水ハザードマップの作成方法 松尾直規（中部大学）
- ※天白川流域住民へのアンケート調査結果 廣内大助（愛知工業大学）
- ※日進市洪水ハザードマップの作成過程 鈴木正敏（日進市）
- ※パネルディスカッション 司会：大西宏治（富山大学）

主催：災害・防災カリキュラム開発委員会（名古屋大学地理学教室）
共催：愛知工業大学地域防災研究センター、富山大学人文学部人文地理学研究室
後援：豊田県、白鳥市、名古屋大学災害対策推進、日本地理学会災害特別委員会、河川環境管理財団
連絡先：名古屋大学環境学研究所地理学講座
〒464-8601 名古屋市中区区不老町 / Tel&Fax: 052-789-2236 (世田 小野)

地下鉄名城線
名古屋大学駅
環境総合館
豊田講堂

災害・防災学習カリキュラム開発委員会の成果である天白川流域住民へのアンケート調査は、天白川の上・下流住民に対する水害意識の違いを把握すること、日進市の洪水ハザードマップ作成へ向けた住民意見の把握を目的とし、さらに水害に対し地域防災力を高めることのできる学習カリキュラムの開発をすすめること、より良いハザードマップ作成への提案をめざして実施したものである。

アンケート調査では、地域住民の属性情報に加えて、ハザードマップの認知度や、ハザードマップに必要と思われる情報、居住地選定理由、水害を減少させるための方法、上流日進市の開発に関する意識などについて質問した。アンケートの配布は日進市、名古屋市とも天白川の流域を中心に各1万部配布し、日進市では約36%、名古屋市でも約28%という極めて高い回収率であった。また回答者の40%以上が60歳以上の高齢者であった。

アンケート結果は、日進市、名古屋市の速報結果を後に示すが、質問の中で「水害に対する不安」を尋ねたところ、日進市では61%の人が不安はないと答えたのに対して、名古屋市では、とても不安とやや不安を合わせて78%を占め、東海豪雨被災地域を含むことも関係するが、上下流の意識の違いが現れた形となった。しかし一方で、洪水ハザードマップが全戸配布されたはずの名古屋市においても、ハザードマップを知る人は60%にとどまっており、ハザードマップが必ずしも認知されていないことが明らかになった。また現在の居住地選定理由に対する質問では、今の場所に住むにあたって水害危険性を考慮したかどうかについて、日進市では55%の人が考慮し、そのうち3%が考慮して危険だと思ったにも関わらずその場所に居住していた。その3%のうちの約30% (全体の約1%) が、地価や家賃、利便性を優先し、特に対策を施していないと回答している。

地域の水害対策力向上のためのアンケート調査 結果速報(日進市)

災害・防災学習カリキュラム開発委員会

調査参加機関:名古屋大学地理学教室、愛知工業大学地域防災研究センター、富山大学人文学部、日進市防災安全課、名古屋市天白区総務課、市民がつくる災害に強いまちづくりの集い

地域防災力向上のためのアンケート調査の実施(於 日進市)

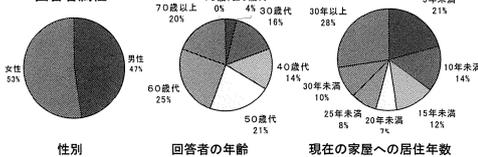
9月から10月下旬にかけて、日進市に暮らす市民を対象に水害に関するアンケート調査を実施しました。
アンケート調査は、①日進市「天白川洪水ハザードマップ」作成のための基礎資料の収集、②市民向け防災学習カリキュラムの開発に活用、を目的としました。

天白川周辺と新興住宅団地を対象に、約1万戸へアンケート用紙を配布し、3614世帯から回答がありました(回収率 約36%)。大変多くの市民のみならずから調査をいただき、ありがとうございました。一般的な社会調査として、このアンケート調査用紙の回収率は非常に高く、市民のみならずの災害に対する関心の高さを表していると思えます。しかし、結果を早く知りたい方もいらっしゃると思います。そこで、アンケート結果の簡単な集計結果をお知らせします。

アンケート調査の概要

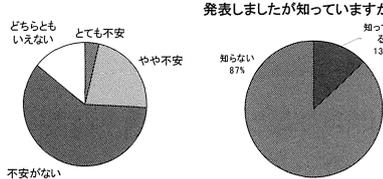
調査地域:日進市の天白川周辺と新興住宅団地
配布世帯数:1万戸(3614世帯から回答)
調査期間:9~10月

回答者属性



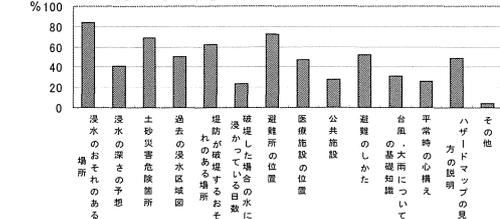
多様な年齢層、居住年数の方々から、回答をいただきました。

現在あなたの住む場所で、豪雨による水害・洪水に不安がありますか？

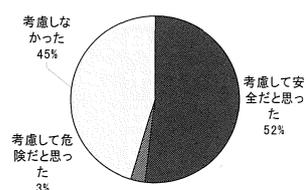


ハザードマップに掲載してもらいたい情報

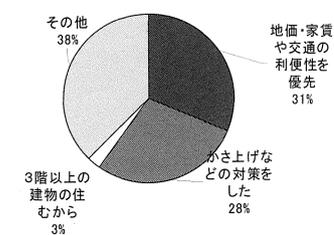
日進市では本年度、「天白川洪水ハザードマップ」を作成します。活用しやすいハザードマップにするために必要だと思う情報を教えてください(複数回答可)。



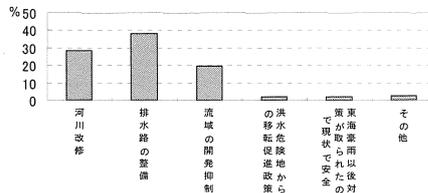
今の場所に住むにあたって水害の危険性を考慮しましたか？



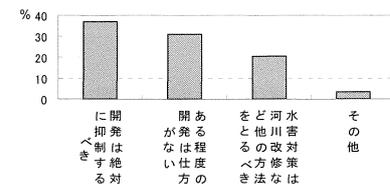
危険だと思った方へ 危険だと思ったのに住むことにした理由は何ですか？



天白川流域で水害を減少させる方法についてお尋ねします。 今後の水害対策のためにはどのような方法が最も有効だと思いますか？ 一つだけ選んでください



天白川の上流が日進市です。日進市での水田の宅地化や森林伐採が天白川流域の水害危険度に影響するといわれています。これについてあなたはどのように考えますか？



名古屋市では水害危険性を考慮したのは41%にとどまり、そのうち約半分の21%は危険だと思ったにも関わらず居住しており、その約35%（全体の約10%）が利便性や地価を優先していることが明らかとなった。また日進市の45%、名古屋市の59%が、居住地選定にあたって水害危険性を考慮しておらず、潜在的に被災可能性があることが明確であった。

次に水害を減少させる方法についての質問では、日進市、名古屋市ともに排水路の整備や河川改修が必要との答えが多く、工学的手法が重要と考える人の割合が7割近くを占める。しかし流域の開発抑制が重要との回答が約1～2割でこれに続いた。最後に、天白川の治水と上流日進市の開発については、名古屋市、日進市とも開発は絶対に抑制すべきであると答えた人が共に3割以上と最も多く、ある程度開発は仕方がないと回答した人がこれに続いた結果となり、流域環境保全の重要性も、流域住民に認識されていることが明らかになった。

地域の水害対策力向上のためのアンケート調査 結果速報(名古屋市)

災害・防災学習カリキュラム開発委員会

調査参加機関：名古屋大学地理学教室、愛知工業大学地域防災研究センター、富山大学人文学部、市民がつくる災害に強いまちづくりの集い

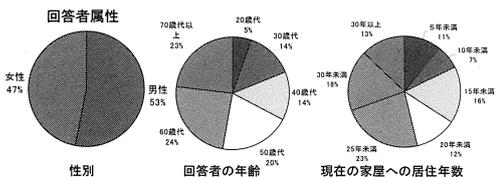
地域防災力向上のためのアンケート調査の実施(於 名古屋市)

2月から3月にかけて、名古屋市南区、緑区、天白区の天白川流域に暮らす市民を対象に水害に関するアンケート調査を実施しました。

アンケート調査は、市民向け防災学習カリキュラムの開発に活用、を目的としたものです。
天白川周辺と新興住宅地を対象に、約1万戸へアンケート用紙を配布し、2584世帯から回答がありました(回収率 約25%)。大変多くの市民のみなさまから回答をいただき、ありがとうございます。一般的な社会調査として、このアンケート調査用紙の回収率は非常に高く、市民のみなさまの災害に対する関心の高さを表していると思います。
結果を早く知りたい方もいらっしゃると思います。そこで、アンケート結果の簡単な集計結果をお知らせします。

アンケート調査の概要

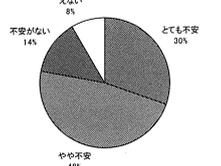
調査地域：名古屋市南区、緑区、天白区の天白川沿い
配布世帯数：1万戸(2584世帯から回答)
調査期間：2～3月



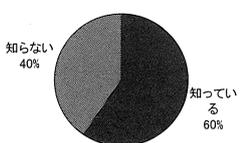
多様な年齢層、居住年数の方々から、回答をいただきました。

現在あなたの住む場所で、豪雨による水害・洪水に不安がありますか？

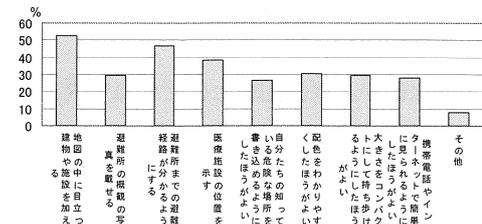
どちらともいえない 8%



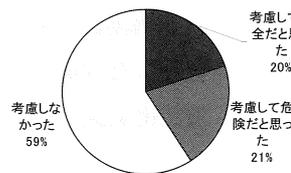
名古屋市では平成15年度に度々天白川洪水ハザードマップを配布しましたが見たことがありますか？



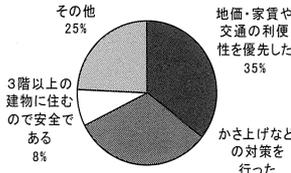
よりわかりやすく使いやすいハザードマップを作成するためにハザードマップをより使いやすくするにはどのような改善が必要ですか？(複数回答可)。



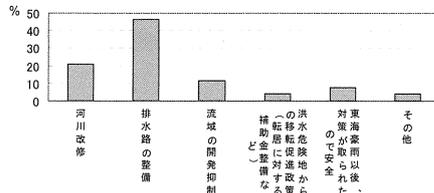
今の場所に住むにあたって水害の危険性を考慮しましたか？



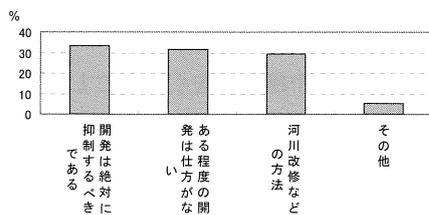
危険だと思った方へ危険だと思ったのに住むことにした理由は何ですか？



天白川流域で水害を減少させる方法についてお尋ねします。今後の水害対策のためにどのような方法が最も有効だと思いますか？ 一つだけ選んでください



天白川の上流が日進市です。日進市での水田の宅地化や森林伐採が天白川流域の水害危険度に影響するといわれています。これについてあなたはどのように考えますか？



9. 公開講座 「地域防災研究センター連続講座」の開催

一般市民向けの公開講座を愛知工業大学 本山キャンパスにおいて全6回開講した。講座内容については以下の通りである。前期は「生活の技術：生きる技術」講座と題し、地震のことを知り、地震から身を守る方法を講義。後期は、「地域防災研究センター講座」と題し、地域防災研究センターの様々な専門家たちが地震防災について講義を行った。受講者数は、27名（前期第1回）、25名（前期第2回）、26名（前期第3回）、45名（後期第1回）、10名（後期第2回）、13名（後期第3回）となり、多くの市民が地震防災について学んだ。

講座内容

前期：「生活の技術：生きる技術」講座

第1回 H17年4月18日 「地震発生のメカニズム」 正木和明教授

東海地震は必ず発生する。それは何故なのか？いつなのか？予知はできるのか？最新の研究成果を紹介し地震予知の最前線を紹介。

第2回 H17年5月16日 「東海地震の災害シナリオ」 正木和明教授

東海地震と東南海地震が同時発生したら愛知県はどうなるのか？愛知県がまとめた被害想定シナリオを中心に解説。また模型を用いて震動、液状化実験に取り組んだ。

第3回 H17年6月20日 「地震から身を守る10か条」 正木和明教授

地震に備え何を準備したら良いのか。地震が来たらどう対処するのか？地震から身を守る方法を伝授した。

後期：「地域防災研究センター」講座

第1回 H17年11月7日 「地震動予測図」 入倉孝次郎 教授

これから起きる地震でどの地域がどれくらいの揺れに襲われるかを政府が予測した図が地震動予測図である。その作成に携わった教授（強震動評価部会長）がその本質を解説した。

第2回 H17年11月21日 「ヘリコプターによる災害救助活動」 小池則満 講師

災害が発生時に救助活動を行う際、重要な手段のひとつであるヘリコプターについて、種類や離着陸場所について紹介した。

第3回 H17年12月5日 「活断層とはなにか？」 廣内大助 研究員

阪神淡路大震災や新潟県中越地震を引き起こした活断層とはなにか。東海地震とはどの点で異なるのか？どのように地震を起こすのか？どうやって活断層を発見するのか？愛知県周辺の活断層などについて、わかり易く解説を行った。

10. マスメディア取材

新聞取材（地域防災センター開所式）

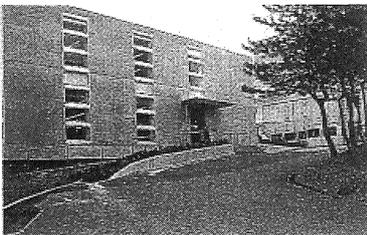
中日新聞・毎日新聞・朝日新聞・中部経済新聞で地域防災研究センター開所の記事が掲載された。

2005年6月11日 中日新聞に掲載（上段）

2005年6月11日 毎日新聞に掲載（下段）

企業の地震防災 研究

■豊田 愛工大にセンター完成



完成した愛知工業大地域防災研究センター＝豊田市八草町で

企業の地震防災システムの技術開発・研究拠点として愛知工業大（豊田市）が市内に建設していた地域防災研究センターが十日、完成した。

センターは鉄筋コンクリート造り二階建て、延べ五百一十二平方メートル。建物全体が免震構造に支えられている。内部には数種類の地震計など観測装置や観測データの配信機器などを備え、企業関係者や市民に広く地震への

備えを訴えるセミナーハウスの役割も担う。防災システムは、大規模地震での地域企業の被害を抑えるのが狙い。センターと三河地方の企業三十社はインターネットで結ばれ、地震発生と同時にセンターは企業に警報を配信し、本格的な揺れが来る数秒から数十秒の間に企業は従業員を避難させたり、機械を止めるなどの対応をする。さらに企業には地震計とコンピューターが置かれ、震度分布などの情報を自動的にセンターに送る。センターはこれを詳細に分析する。

愛工大はセンターの建設と並行して、企業側の装置などの設置を進めており、二〇〇七年に試験配信を始め、〇九年に実用化を目指す。センターの建設とシステムの構築は文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業に選ばれている。

（後藤 聡）

（この記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています）



「地域防災研究センター」完成

愛工大に地震情報活用拠点

愛知工業大学（豊田市）に産学連携事業の地震情報活用研究拠点「地域防災研究センター」が完成し写真。十日、開所式が行われた。七月一日から三河地域の企業に地震情報を24時間配信し、「地震に強いものづくり地域」の実現を目指すという。

同センターは、三河地域の事業所30社の60地点に「強震観測」などの地震計を配置し、受信した地震観測情報をインターネットを通じて各企業に配信する。また、企業とその家族を含めた市民防災システムの研究のほか、一階展示室に長周期や大振幅の揺れを体験できる「自走式振動台」、新潟県中越地震の断層や建築物の被害状況のパネルなどを展示して、一般公開する。

この事業は文部科学省の04年度私立大学学術研究推進事業の一つ。拠点施設のセンターは免震構造の鉄筋2階建て延べ約520平方メートル。開所式の前、地震の記念講演会が開かれた。

【十井健二】

（毎日新聞社提供）

新聞取材（地域防災センターで実証実験）

2005年8月30日 中日新聞に掲載

災害時に活躍する救助ロボットの製作に取り組む静岡県浜松市の浜松工業高校の生徒9名が2005年8月26日～30日の5日間、センターの「地震防災研究プログラム」により、自走式振動台を利用し、ロボットがどの程度の揺れにまで対応できるかなどの実験を行った。

地震時などに活躍 ロボット実証実験

地震などの災害時に活躍する救助ロボットの製作に取り組む静岡県浜松市の浜松工業高校の生徒9名が、愛知工業大（豊田市）の地域防災研究センターで、専門設備を使った実証実験を行っている。

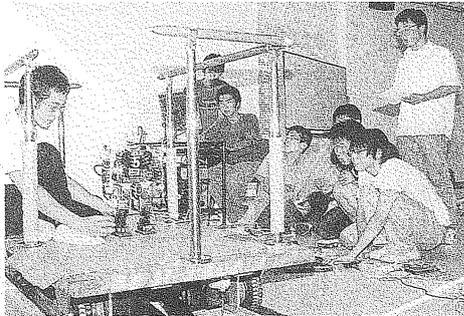
（臼杵 秀之）

生徒たちは、長さ約四十五センチの二足歩行型と、長さ約五十センチの四足歩行型のロボット二台を持つ「地震防災研究プログラム」に応募。三十日までの五日間、実験を行っている。

を使って、ロボットがどの程度までの揺れに耐えられるか、揺れに対処するプログラムが機能するかなどを検証している。

浜松工業は、愛工大工学部の正和明教授が中心になって進めている防

自走式振動台を使ってロボット実験をする生徒たち＝豊田市の愛知工業大で



チームリーダーの三年、中津川剛士君（こ）は「まだ改善する余地がたぐさあるので、よりロボットの精度を上げていきたい」と話していた。

愛工大施設で
浜松の生徒ら

（この記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています）

NHK報道特集番組「東海経済を地震から守れ」で生中継

2006年1月13日午後7:30から8:40まで放送されたNHK報道特集番組「東海経済を地震から守れ」で、センターからの生中継放送が行われた。最初にセンター建物の概観が映し出され、引き続き本センターが緊急地震速報を企業に配信するシステムの紹介がなされた。番組の後半では、本プロジェクトで開発された震動シミュレーター「自走ぶるる」を用いた石油タンクのスロッシング模型実験の様子が中継された。企業の地震対策実施例の一つとして、緊急地震速報の配信先のひとつである三洲電線の活動が取り上げられた。番組は、午後7:30からの放送であったため多くの視聴者の関心を呼び、番組終了後、企業から本システムに対する多くの問い合わせがあった。

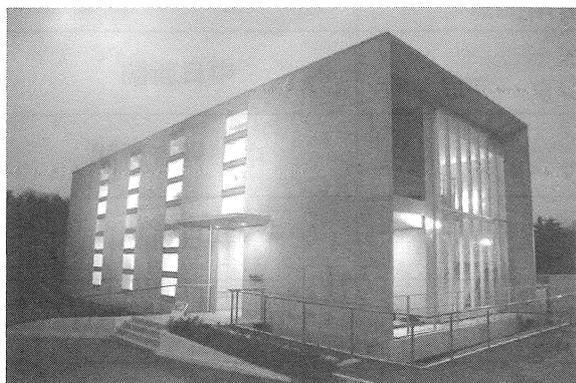


写真1 中継のためライトアップされたセンター



写真2 中継の準備の様子



写真3 紹介された企業端末の緊急地震速報

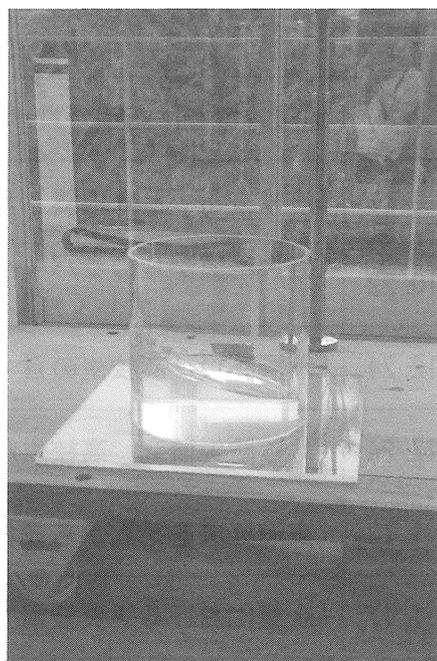


写真4 紹介されたスロッシングの模型実験

平成17年度 マスメディア取材 一覧

日付	記事・報道の標題	報道機関
17. 6. 10	開所式の模様	NHK 「ほっとイブニング」
17. 6. 10	開所式の模様	CBC 「ユーガッタCBC」
17. 6. 11	防災力向上へ 企業に地震速報 愛工大に新センター	朝日新聞
17. 6. 11	「地域防災研究センター」完成 愛工大に地震情報活用拠点	毎日新聞
17. 6. 11	企業の地震防災研究 豊田 愛工大にセンター完成	中日新聞
17. 6. 11	愛工大 地震情報をネット配信 地域防災研究センター開所	中部経済新聞
17. 7. 7	素早い警報、ITを駆使	朝日新聞
-	地域のコミュニティづくりから都市防災を考える	進研プレス 2004
17. 7. 29	独自の地震観測網を構築し 企業の防災能力の向上を目指す	日経BPムック「変革 する大学」シリーズ
17. 7. 14	特集「新防災システム 緊急地震速報」	プラス1しずおか
17. 7. 14	浜松工業高等学校がセンターで地震時に活躍する ロボットの実証実験する模様	静岡第一テレビ
17. 8. 30	地震時などに活躍 ロボット実証実験	中日新聞
17. 9. 11	「迫り来る！巨大地震 5」	CBCテレビ
17. 10. 22	「巨大地震からのサバイバル～衝撃！ そして悲しみ・新潟・中越地震の教訓」	中京テレビ
17. 12. 24	「地震防災 高校生の目で 豊田で研究成果披露」	朝日新聞 三河版
17. 12. 24	「地震防災研究 高校生が発表 豊田市で」	朝日新聞 名古屋版
18. 1. 13	「東海経済を地震から守れ」	NHK
18. 1. 17	「企業における防災技術や考え方」	日刊工業新聞
18. 3. 29	大学生と一緒に授業を受けよう	中日新聞

11. 愛知工業大学 学長賞 受賞（センター長 正木和明 都市環境学科教授）

教育・研究や管理・運営など、大学の発展に貢献した人を顕彰する「学長賞」が創設され、第一回の受賞者に地域防災研究センター長 正木和明教授が選ばれました。表彰式は、4月3日10:00～、愛知工業大学10号館大講義室で行われました。

受賞理由は、「地震防災コンソシアム」を組織してまとめた研究テーマが、文科省の平成16年度産学連携推進事業に採択されるなど、地域の地震防災向上を目指した教育・研究で、広く地域に貢献していることです。



写真 後藤学長を囲んで受賞者記念撮影（左より4人目が正木センター長）

地域防災研究センター委員 講演会等リスト (講演予定を含む)

【正木和明】

- ・ 本山キャンパス公開講座,「地震発生のメカニズム」,2005年4月18日
- ・ 本山キャンパス公開講座,「東海地震の災害シナリオ」,2005年5月16日
- ・ 本山キャンパス公開講座,「地震から身を守る10か条」,2005年6月20日
- ・ 豊田市三協会合併総会記念講演,「東海・東南海地震と危険物災害」,2005年4月26日
- ・ トヨタホーム地震に強い家発見セミナー,「東海大地震～その被害予測と防災対策」,2005年5月5日
- ・ 稲沢市民センターまちづくり推進協議会講演会,「我が町、我が家の地震対策を考える」,2005年8月6日
- ・ 愛知防災カレッジ講師,「地域防災論」,2005年8月7日
- ・ 師勝町講演会,「我が町、我が家の地震対策を考える」,2005年8月27日
- ・ 愛知県建設部建設技術研修講義,「地震防災」,2005年9月9日
- ・ 愛知県応急危険度判定士講習会,「地震に関する講演」,2005年9月13日
- ・ 第52回AITオープンフォーラム講演,「地震に立ち向かう」,2005年9月17日
- ・ 名古屋市民大学・大学連携講座,「名古屋を学ぶI」講義「名古屋の地盤形成と地震災害」,2005年10月13日
- ・ 知多市地域防災マップ講習会,「地域防災マップについて」,2005年10月16日
- ・ 大学月例懇談会11月例会講演,「地震災害シナリオ」,2005年10月26日
- ・ 安城志貴学区講演会,「地震に恐れず立ち向かう～防災マップづくり」,2005年11月3日
- ・ 知多市地域防災マップ講習会,「地域防災マップ講評」,2005年12月18日

【入倉孝次郎】

- ・ 緊急地震速報伝達システムの開発と地震災害の軽減に関するシンポジウム,「巨大地震による長周期地震動の影響と対策」,ル・ポール麴町ロイヤルクリスタル,2005年10月14日
- ・ 動力学的断層モデルに基づく強震動予測,平成17年度自然科学分野原子力安全基盤調査研究ワークショップ「原子力安全基盤の充実に向けて一活断層・地震・津波の研究一」,富国生命ビル,2005年11月1日
- ・ 愛知工業大学本山キャンパス公開講座,「地震動予測図」,地域防災研究センター講座,愛知工業大学本山キャンパス,2005年11月7日
- ・ 近畿圏で想定される広域地震災害とその特徴 平成17年度第5回近畿防災・機器管理研究会「近畿圏で想定される広域災害に備える」,大阪農林会館,2006年3月3日
- ・ 日本の強震動研究,日本の強震観測とE S G研究の歩み講演会,東京ガーデンパレス,2006年3月29日

【建部謙治】

- ・ 第55回AITオープンフォーラム講演,「人にやさしい住まい・街」,2005年10月

【長瀧重義】

- ・ メキシコメリダ大学研究セミナー,“A Critical Review on The Use of Recycled Aggregate for Concrete”
2005年5月
- ・ メキシコ土木学会ユカタン支部主催国際セミナー,“Deterioration and Maintenance Technology of Concrete Structures”2005年5月

- ・新世代 PCa 工業会総会講演,「最近のコンクリート技術の動向と展望」,2005 年 10 月
- ・ SQC 構造物開発・普及協会講演会,「コンクリート技術の現状分析と将来展望ー SQC からウルトラ SQC へー」,ロイヤルパークホテル,2005 年 10 月
- ・ SOC 生コンクリート会技術講演会,「性能照査設計とコンクリートの技術開発」,2006 年 3 月

【小池則満】

- ・ 愛知工業大学本山キャンパス公開講座,「ヘリコプターによる災害救助活動」,地域防災研究センター講座,愛知工業大学本山キャンパス,2005 年 11 月 21 日
- ・ 平成 17 年度ドクターヘリ運航調整委員会・運航実施部会,「ドクターヘリの高速度路上活動について」,名古屋市,2006 年 3 月

【廣内大助】

- ・ 日進市社会教育講座,「地震に備える」,日進市,日進市民会館,2005 年 6 月 17 日
- ・ TKPB (東海圏開発プロジェクト分科会) 臨時勉強会,「活断層と地震災害」,愛知工業大学,2005 年 10 月 17 日
- ・ 愛知工業大学本山キャンパス公開講座,「活断層とはなにか?」,地域防災研究センター連続講座,愛知工業大学本山キャンパス,2005 年 12 月 5 日
- ・ 天白川流域住民へのアンケート調査結果. 公開シンポジウム「流域でみる洪水ハザード」,災害・防災学習カリキュラム開発委員会,名古屋大学,2006 年 4 月 15 日
- ・ TKPB (東海圏開発プロジェクト分科会) 防災委員会勉強会,「活断層を知り、備える」,伊藤忠商事名古屋支社,2006 年 5 月 23 日

【西村雄一郎】

- ・ Yuichiro Nishimura and Kenichi Nonaka: Session Organizer: Humanity and Nature in Vientiane Plain, Laos. The Association of American Geographers 2005 Annual Meeting, 2005. 4. Denver, Colorado.

各種委員など

【入倉孝次郎】

- ・ 日本学術会議会員
- ・ 独立行政法人防災科学技術研究所客員研究員
- ・ 文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員、強震動評価部会長
- ・ 科学技術・学術審議会測地学分科会臨時委員
- ・ 内閣府中央防災会議専門調査会専門委員
- ・ 内閣府原子力安全委員会専門委員
- ・ 経済産業省総合資源エネルギー調査会臨時委員
- ・ 科学技術・学術審議会学術分科会臨時委員
- ・ 科学技術・学術審議会学術分科会 学術研究設備作業部会委員
- ・ 科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会委員

- ・京都府地震被害想定調査委員会委員
- ・耐震設計審査指針専門委員会委員
- ・大都市圏地殻構造調査研究運営委員会委員
- ・強震観測事業推進連絡会議委員
- ・地震防災評価気候運営会議委員
- ・京都文化会議組織委員会企画委員
- ・防災研究フォーラム幹事会委員
- ・原子力発電耐震設計専門部会委員、地震・地震動部会委員
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
- ・防災に関する国際シンポジウム(I S M D 2 0 0 6) 科学技術委員
- ・防災科学技術研究開発課題外部評価委員
- ・社団法人日本地震学会代議員
- ・社団法人日本地震学会災害調査委員会委員
- ・社団法人土木学会東海地震等巨大災害への対応特別委員会委員
- ・社団法人土木学会巨大災害への対応検討特別委員会地震動部会委員
- ・社団法人土木学会・日本建築学会京大地震対応共同研究連絡会地震動部会委員
- ・財団法人震災予防協会評議員
- ・独立行政法人原子力安全基盤機構 P S A 検討会・地震ハザード評価分科会委員
- ・財団法人地域地盤環境研究所評議員

【建部謙治】

- ・社団法人日本建築学会避難計画小委員会委員
- ・社団法人日本建築学会避難情報 WG 委員

【小池則満】

- ・土木学会 実践的 I T S 研究委員会 主任研究員
- ・豊田市総合計画審議会委員

【廣内大助】

- ・新修名古屋市史資料編専門委員（自然担当）
- ・日本地理学会災害対応委員
- ・国土地理院主要活断層調査検討委員会委員
- ・国立歴史民俗博物館共同研究員
- ・独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センター協力研究員

【西村雄一郎】

- ・独立行政法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所共同研究員

地域防災研究センター委員 業績リスト

【著書】

- ・ **小橋勉**：「現代経営組織論」, 有斐閣 (2005.12) (共著)
- ・ **西村雄一郎**：「トルステン・ヘーゲルストランド - 時間地理学 -」, 『都市の地理学』 加藤政洋・大城直樹編, ミネルヴァ書房 (2006.98-110) (印刷中).

【論文】(審査付)

- ・ Asano, K.・ T. Iwata・ **K. Irikura** : Estimation of source rupture process and strong ground motion simulation of the 2002 Denali, Alaska, earthquake. BSSA, Vol.95, No.5, pp.1701-1715, (2005)
- ・ **K. Irikura**・ H. Miyake: Recipe for Predicting Strong Ground Motions: State of the Art and Future Prospects. 100th Anniversary Earthquake Conference, San Francisco, California, (2006.4)
- ・ 鈴木賢一・ **建部謙治**・ 吉岡竜巳：「小学校複合化施設における児童の火災避難行動に関する研究」, 日本建築学会計画系論文集, No.595, pp.41-47 (2005.9)
- ・ **小池則満**・ 栗田敬司：「高速道路本線上におけるヘリ離着陸難易度のランク付け」, 日本航空医療学会雑誌, 第6巻, 第1号, pp.15-21 (2005.5)
- ・ **小橋勉**：「組織間関係の進化に関する研究の展開：レベルとアプローチの視点から」, 経営学史学会年報, 第12輯, pp.118-127 (2005.5)
- ・ 鈴木康弘・ 岡田篤正・ 竹村恵二・ 慶在福・ 金幸隆・ **廣内大助**・ 伊藤愛・ 大石超・ 中村洋介・ 成瀬敏郎・ 北川浩之・ 渡辺満久：「韓国南東部・蔚山断層帯北部の古地震活動 - 慶州市葛谷里における第2次トレンチ調査 -」, 活断層研究 25号, pp.147-152 (2005)
- ・ 松多信尚・ 澤 祥・ 安藤俊人・ **廣内大助**・ 田力正好・ 谷口薫・ 佐藤善輝・ 石黒聡士・ 内田主税・ 佐野滋樹・ 野澤竜二郎・ 坂上寛之・ 隈元崇・ 渡辺満久・ 鈴木康弘：「写真測量技術を導入した糸魚川-静岡構造線断層帯北部(樽池-木崎湖)の詳細変位地形・鉛直平均変位速度解析」, 活断層研究, 26号 (2006) (投稿中)
- ・ 澤 祥・ 田力正好・ 谷口薫・ **廣内大助**・ 松多信尚・ 安藤俊人・ 佐藤善輝・ 石黒聡士・ 内田主税・ 坂上寛之・ 隈元崇・ 渡辺満久・ 鈴木康弘：「糸魚川-静岡構造線活断層帯北部, 大町~松本北部間の変動地形認定と鉛直平均変位速度解明」, 活断層研究, 26号 (2006) (投稿中)
- ・ **廣内大助**・ 安江健一・ 奥村晃史・ 海津正倫・ 阿寺断層調査グループ：「トレンチ掘削調査に基づく阿寺断層帯中北部, 下呂断層の古地震活動時期」, (投稿準備中)
- ・ Kazuaki Hori, Ryota Kuzumoto, **Daisuke Hirouchi**, Mastomo Umitsu and boonrak patanakanog: Spatial and vertical variation of tsunami deposits along the western coast of Thailand associated with the 2004 Sumatra Earthquake. (投稿準備中)
- ・ **小出栄治**・ **福和伸夫**・ **正木和明**・ **原徹夫**・ 太田賢治・ 糸魚川貢一：「建物観測のためのインターネット活用型低コスト地震計の開発」, 日本建築学会技術報告集第23号, (採用決定, 2006.6 掲載予定)

【論文】(研究報告集、紀要等)

- ・ 村瀬浩也・ **正木和明**：「緊急地震速報による震度予測の精度に関する研究」, 愛知工業大学研究報告, 第41号B, pp.151-158 (2006.3)
- ・ 日比慎一・ **正木和明**：「微動アレー観測による岡崎平野の地盤構造探査」, 愛知工業大学研究報告, 第41号B (2006.3) (印刷中)

- ・吉岡竜巳・鈴木賢一・**建部謙治**：「児童の避難行動にストレスと避難誘導が与える影響について」, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 44 号, pp.613-616(2006.2)
- ・**正木和明**・**小林有希**・**建部謙治**・**小橋勉**・**小池則満**・今岡克也：「産官民一体型地域防災カルテの作成」, Vol.54, No.2, pp.27-32(2005.4)
- ・**建部謙治**・柘植美孝：「屋外広告物の有効性についての研究, 走行シミュレーション実験からみる効果のない看板」, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 44 号, pp.697-700(2006.2)
- ・**建部謙治**・**小橋勉**・田村和夫・高橋郁夫・二宮裕徳：「大地震による中小企業の被災状況」, 愛知工業大学研究報告, 第 41 号 B, pp.159-168(2006.3)
- ・**長瀧重義**：「日本コンクリート工学協会 40 年の堅実なあゆみの基」, コンクリート工学, Vol.43, No.9, pp.1,(2005.9)
- ・**長瀧重義**：「建設技術者の倫理」, コンクリート工学, Vol.44, No.1, pp.1,(2006.1)
- ・**長瀧重義**・大川裕：「コンクリート用化学混和剤 JIS A 6204 改正の概要とポイント」, セメント・コンクリート, Vol.709, pp.35-47(2006.3)
- ・堀和明・**廣内大助**・海津正倫：「津波堆積物の堆積構造と堆積過程」(アンダマン海における海岸環境変化と津波堆積物調査, 研究代表者 海津正倫). 平成 16 年度科学技術振興調整費(緊急) 調査報告書(名古屋大学環境学研究科), pp.48-53(2005)

【その他】(報告書など)

- ・**建部謙治**：「在日外国人の子供の火災安全教育に関する研究」,(財)日比科学技術振興財団 助成研究成果論文集, Vol.7, pp.15-21(2005.4)
- ・定岡直樹・**成田国朝**・**奥村哲夫**・木村勝行・大根義男：「水位急低下時の堤体内浸透挙動に関する遠心実験」, 愛知工業大学研究報告, No.39B, pp.85-90(2004.3)
- ・**K.Narita, T.Okumura, K.Kimura and Y.Ohne**, Centrifuge tests on Seepage Behavior in Embankment Dam during Rapid Draw-down. 4th Int. Conf. on Dam Engineering, Nanjing, pp.657-666(2004.10)
- ・**西村雄一郎**・岡本耕平「ラオスの近代化・グローバル化による日常生活変化の2つの道筋ーヴィエンチャン縫製業労働力調査とドンクアイ村 GPS・GIS による生活行動調査・世帯悉皆調査の分析からー」, 総合地球環境学研究所生態史プロジェクト 2005 年度成果報告書(2006)(印刷中)

【学会発表・プロシエディングス】

- ・**正木和明**：「愛知工業大学地震防災コンソシアムのプロジェクト構想」, 日本地震学会講演予稿集 2005 年度秋季大会, B071, pp.90(2005.10)
- ・**倉橋 奨**・**正木和明**・澤田義博・凌 甦群：「堆積平野の基盤構造推定における微動アレー探査法の適用限界の検証」, 日本地震学会講演予稿集 2005 年度秋季大会, B056, pp.82(2005.10)
- ・**倉橋 奨**・**正木和明**・澤田義博・凌 甦群：「堆積平野における微動アレー探査法の適用限界の検証」, 日本地震工学会・大会 2005 梗概集, pp.458(2005.11)
- ・**正木和明**・**小林有希**・**建部謙治**・**小橋 勉**・**小池則満**・今岡克也：「産官民一体型地域防災カルテの作成」, 日本地震工学会・大会 2005 梗概集, pp.530(2005.11)
- ・**正木和明**：「三河地域の企業防災力向上技術の開発」, 第 24 回日本自然災害学会学術講演会概要集, pp.211(2005.11)

- **正木和明・小池則満・廣内大助・小林有希**：「地域防災カルテの作成」，第 24 回日本自然災害学会学術講演会概要集 ,pp.213(2005.11)
- **伊藤貴盛・小出栄治**・林能成・**國澤和義・落合鋭充・正木和明・廣内大助**：「愛知工業大学地震防災コンソシウムにおける企業地震防災システム (第一フェーズ) の開発」，日本地震学会秋季大会 (2005)
- **入倉孝次郎**・三宅弘恵・Luis A. Dalguer・松島信一・壇一男・佐藤俊明・香川敬生：「動力学的震源も出るに基づく強震動予測 (2) 地表および地中断層地震の震源のモデル化と強震動評価」，地震学会 2005 年秋季大会 北海道大学 (2005.10)
- **K. Irikura**: Prediction of strong ground motion with“recipe”.ERI/SCEC workshop.Public Lecture, (2005.10)
- **K. Irikura**・ H. Miyake・ L.A.Dalguer・ S. Matushima・ K. Dan・ T. Sato・ T. Kagawa・ P.M. Mai・ P.G. Somerville・ A. Pitarka・ S.G. Song and G.C. Beroza:Characterized Source Modeling of Surface and Subsurface Faulting for Strong Motion Prediction. The 2005 AGU Fall Meeting,San Francisco, CA,USA,(2005.12)
- 沖村陽一・松本直司・**建部謙治**・村上裕樹：「刈谷市の小学生とその保護者の心象風景の想起場所と地区特性，生活空間における心象風景と地区特性 (その 1)」，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1,pp.1095-1096 (2005.9)
- 水野久・松本直司・**建部謙治**・村上裕樹：「刈谷市の小学生とその保護者の心象風景の想起場所と地区特性，生活空間における心象風景と地区特性 (その 2)」，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1,pp.1097-1098 (2005.9)
- 吉岡竜巳・鈴木賢一・**建部謙治**：「避難シミュレータを利用した防火教育に関する研究，複数による避難と反復訓練の効果について」，日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1,pp.911-912(2005.9)
- 二宮裕徳・**建部謙治**：「地震防災における企業の防災力の評価に関する研究」，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1,pp.753-754(2005.9)
- 定岡直樹・**成田国朝・奥村哲夫**・木村勝行・大根義男：「水位急低下時の堤体内浸透挙動に関する遠心実験」，愛知工業大学研究報告 ,No.39B,pp.85-90(2004.3)
- 中村吉男・島崎勝・**奥村哲夫・成田国朝**・大根義男：「遮水用アスファルト混合物の単軸引張試験の試み」，平成 16 年度 (第 59 回) 土木学会全国大会講演集，V -555,pp.1107-1108(2004.9)
- Y.Nakamura,**T.Okumura,K.Narita** and Y.Ohne, : Improvement of Impervious Asphalt Mixture for High Ductility against Earthquake Excitation. 4th Int. Conf. on Dam Engineering,Nanjing, pp.647-656(2004.10)
- **K.Narita,T.Okumura,K.Kimura** and Y.Ohne, : Centrifuge tests on Seepage Behavior in Embankment Dam during Rapid Draw-down. 4th Int. Conf. on Dam Engineering,Nanjing,pp.657-666(2004.10)
- Y.Ohne,**K.Narita,T.Okumura** and Y.Nakamura, : Hydraulic Fracturing of a Rock-fill Dam During the 1995 Hyogoken-Nambu Earthquake. 4th Int. Conf. on Dam Engineering,Nanjing,pp.683-692(2004.10)
- 永松邦夫・野口真一・定岡直樹・中村吉男・**奥村哲夫・成田国朝**・大根義男：「循環型社会形成を目指した泥土 (建設汚泥) 再利用技術について」土木学会土木建設技術シンポジウム 2005 論文集 ,pp.75-80(2006.7)
- 井田剛史・平野廣和・佐藤尚次・**奥村哲夫**：「浮屋根式タンクのスロッシング減衰効果の研究」，第 33 回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集，I -067(2006.3)
- 有田新平・平野廣和・佐藤尚次・**奥村哲夫**：「スロッシングによる浮き屋根式タンクの強度に関する研究」，第 33 回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集，I -068(2006.3)
- **S. Nagataki** : Roller Compacted Concrete, which is expected to make use of coal ash recycled . Seminar and Workshop on Coal ash utilization and effective use for RCC in Vietnam, (2005.4)

- **S.Nagataki** : Durability of Recycled Aggregate Concrete. Raymund Rivera Symposium on Durability, Monterrey, Mexico, pp305-323(2005.5)
- K.Morino, E.Iwastuki, **S.Nagataki** : Expansion Mechanical Properties and Microstructure of Core Samples Extracted from Concrete Bridge and Retaining wall Damaged By ASR. Construction Materials, Proceedings of ConMat'05 and Mindess Symposium, pp273-282 CD, (2005.8)
- **長瀧重義**・佐伯竜彦:「リサイクルに係る建設材料第76委員会の活動概要」, コンクリート用再生骨材の普及促進に関するシンポジウム JCI-C67, pp5-22(2005.9)
- **岡田久志**・河合良道・大和田哲・清水秀夫・唐津敏一・渡邊力・奥村和久:「ドリルねじ接合の鉄骨造への適用に関する研究 その1 ドリルねじ重ね継手のせん断耐力評価」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、構造Ⅲ, pp583 - 584(2005.9)
- 渡邊力・**岡田久志**・河合良道・大和田哲・清水秀夫・唐津敏一・定光正:「ドリルねじ接合の鉄骨造への適用に関する研究 その2 ドリルねじと鋼板の接合部引抜き試験」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、構造Ⅲ, pp585 - 586(2005.9)
- 清水秀夫・**岡田久志**・河合良道・大和田哲・唐津敏一・渡邊力・完山利行:「ドリルねじ接合の鉄骨造への適用に関する研究 その3 ねじ接合された軽量H形鋼梁の曲げ試験」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、構造Ⅲ, pp587 - 588(2005.9)
- 平井義行・**岡田久志**・河合良道・大和田哲・清水秀夫・唐津敏一・渡邊力:「ドリルねじ接合の鉄骨造への適用に関する研究 その4 ドリルねじ接合された軽量溝形鋼組み合わせ梁の曲げ試験」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、構造Ⅲ, pp589 - 590(2005.9)
- 唐津敏一・**岡田久志**・河合良道・大和田哲・清水秀夫・渡邊力・上岡優:「ドリルねじ接合の鉄骨造への適用に関する研究 その5 繰り返しせん断試験」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、構造Ⅲ, pp591 - 592(2005.9)
- **中村満喜男**:「2軸偏心を有する免震建物のねじれ振動解析に関する研究 - 回転滑りを考慮した振動方程式 -」, 日本建築学会大会学術講演会(近畿), B-2, pp.697-698(2005.9)
- **小池則満**:「高速道路上へのヘリコプター着陸の可否」, ヘリコプター救急の進展に向けて, 特定非営利活動法人救急ヘリ病院ネットワーク, pp.31-36(2005.10)
- **小池則満**・栗田敬司:「全国展開に必要なドクターヘリ機数の試算」, 第12回日本航空医療学会プログラム抄録集, pp.47(2005.11)
- 齋藤成彦・川合拓也・**小池則満**:「高速道路事故におけるドクターヘリコプターを活用した救援シミュレーション」, 土木学会中部支部平成17年度研究発表会講演概要集, pp.439-440(2006.3)
- 二村禎晃・安姓裕樹・**小池則満**:「ドクターヘリコプターの全国展開に向けた評価指標に関する一考察」, 土木学会中部支部平成17年度研究発表会講演概要集, pp.441-442(2006.3)
- **Kobashi Tsutomu**, Goto Tokimasa : A Research on the Dynamics of Cooperation and Competition. 12th International Conference on Multi-Organizational Partnerships, Alliances and Networks (於: University of Glamorgan(英国))(2005.6)
- **小橋勉**・後藤時政:「企業間関係の協調と競争のダイナミクス」, 第18回日本経営診断学会中部部会(2005.8)
- 大西宏治・**廣内大助**・岡本耕平・富田啓介:「災害・防災に関する生涯学習カリキュラムの開発 - ハザードマップを中心に -」, 日本環境教育学会(2005)
- **廣内大助**・安江健一・道家涼介・前川拓哉・佐藤善輝・**倉橋奨**・平松孝晋:「阿寺断層系中部の断層構造とその活動性」, 日本地震学会秋季大会(2005)

- ・堀 和明・**廣内大助**・海津正倫：「スマトラ沖地震により生じたタイ西部の津波堆積物」，地形学連合 2005 年秋季大会 (2005)
- ・大西宏治・**廣内大助**：「市民の持つ洪水ハザードマップと流域に対する意識－愛知県日進市を事例として－」，日本地理学会春季学術大会 (2006)
- ・吾妻崇・**廣内大助**・渡辺満久：「高田平野断層帯南部における断層構造と変位量」，日本地理学会春季学術大会 (2006)
- ・吾妻崇・**廣内大助**・岩崎悦夫・宇佐美光宣：「トレンチ掘削調査による高田平野断層帯の最新活動時期の検討」，日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・奥野真行・鈴木康弘・渡辺満久・**廣内大助**・内田主税：「地域防災のための三重県活断層マッピング計画」，日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・鈴木康弘・糸魚川一静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (**廣内大助**ほか)：「糸魚川一静岡構造線活断層帯の地震時断層挙動および強震動の予測精度向上に資する変動地形調査」，日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・澤 祥・糸魚川一静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (**廣内大助**ほか)：「糸魚川一静岡構造線活断層帯北部の変動地形調査および航測解析による平均変位速度解明とその意義」，日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・Nobuhisa Matsuta, Wen-Shan Chen, Chi-Cheng Yang, Yi-Iching Yan, Neng-Wei Huang, Shih-Hwa Sung, Ruey-Chyuan Shih, Yue-Gau Chen, Mitsuhsa Watanabe, Hiroshi Sawa, **Daisuke Hirouchi** and Yoko Ota : Behavior and structure of the frontal thrust system (Changhua fault) in Houli and Tatushan area, western Taiwan. Asian Oceania Geosciences Society. (2006.7)
- ・**Yuichiro Nishimura** and Kohei Okamoto. Time-geographical Analysis on the Daily Lives of Village People in Laos. The Association of American Geographers 2005 Annual Meeting, 2005. 4. Denver, Colorado.
- ・**西村雄一郎**・岡本耕平：「ラオス・サイタニー郡における日常生活の時空間」2005 年度日本地理学会秋期学術大会，茨城大学 (2005.9)
- ・**西村雄一郎**：「ラオス・ビエンチャンの産業化と生活空間－縫製業の立地・雇用と労働者居住地からの検討 -」2005 年度人文地理学会秋期学術大会，九州大学 (2005.11)
- ・**Yuichiro Nishimura** and Kohei Okamoto. Time-spatial allocation survey using GPS and GIS in Dongkhuai village in Xaythani District. International workshop in NAFRI, Laos, (2006.3)
- ・**西村雄一郎**：「ラオス・ヴィエンチャン郊外農村における GPS・GIS を用いた時空間収支調査法の開発」，2006 年度日本地理学会春期学術大会，埼玉大学 (2006.3)
- ・**西村雄一郎**：「ラオスの近代化・グローバル化と日常生活の変化」，経済地理学会中部支部 2006 年 4 月例会，名古屋大学 (2006.4)
- ・**西村雄一郎**：「トヨタ企業社会と従業員家族の生活時空間の変化 90 年代から現在まで」人文地理学会特別例会，中部大学 (2006.6)